

# 不登校等の問題行動の未然防止と初期対応のあり方

—課題を見出し、解決策を探る—

教育相談センター指導主事研究会議

板橋美由紀

中川 薫

中島 智美

松田 典英

## I 主題設定の理由

不登校等の問題行動に対しては、未然防止や初期対応に力を注ぎ、早めの対応をすることで状況が好転することが望ましいが、現状としては、事後対応に追われることが多いのではないだろうか。その結果、問題は深刻化・長期化し、保護者の不安や不満につながり、対応する教員の疲弊が起こるといった悪循環を招いているケースがある。中でも川崎市立中学校の不登校の出現率はここ数年、全体的には減少しているものの、依然全国平均を上回っており、長期化するケースも多く、本市の大きな教育課題の1つとなっている。文部科学省の「不登校に関する実態調査<sup>1)</sup>」は、過去に不登校であった生徒の5年後の状況等の追跡調査を実施しているが、その中で「一度、欠席状態が長期化すれば、回復が困難であり、『最初に学校を休み始めた』時期と長期化した時期との間の『潜在期間』に注目した対応が必要である。」としている。また国立教育政策研究所の生徒指導リーフ「いじめと暴力<sup>2)</sup>」には、「対応を先送りしないこと」と「日ごろから児童生徒理解に努め、小さな変化にも注意すること」、「『発見』する取組の限界を自覚し、『生まない』ための未然防止に取り組む必要がある」と記されており、いずれも未然防止・初期対応の重要性について述べている。これまでも未然防止・初期対応の重要性については指摘されてきたが、改めて改善を促している。

本研究では、不登校をはじめとする問題行動への対応について、未然防止や初期対応に重点を置く教育相談体制、児童生徒指導体制を作りたいと考えた。それにはまず、本市の課題を見出し、それに合わせた解決策を立てていく必要があると考え、研究主題及び副題を次のように設定した。

不登校等の問題行動の未然防止と初期対応のあり方 ～課題を見出し、解決策を探る～

## II 研究の内容

次の項目を中心に、表1と「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」を活用して実態調査を行うことで現状を把握し、課題を明らかにしたうえで、課題を解消するための取組を検討していく。

- (1) 支援が必要な子どもへの配慮
- (2) 小中連携

### 1 課題に関する実態調査

- (1) 支援が必要な子どもへの配慮

#### ①不登校

##### ア 不登校のきっかけ

問題行動調査と適応指導教室及び相談室の相談員による不登校のきっかけと考えられる調査では、表2のようにとらえ方にずれがみられた。過去に不登校だった生徒に調査した文部科学省の「不登校

表1 調査に使用する資料

1 教員向け振り返りチェックシート (H26)
1, 2, 10年目研修受講者
2 教員向けアンケート (H26, 27)
① 不登校対策研修会参加者 (全小中学校)
② 児童支援コーディネーター、生徒指導担当
③ スクールカウンセラー
3 来所相談、ゆうゆう広場相談員アンケート
4 学校調査 (H25 卒業生)

表2 不登校のきっかけのうち学校にかかわるもの

不登校のきっかけのうち学校にかかわるもの (適応指導教室と来所相談の相談員への聞き取り)
問題行動調査よりも割合が高かった項目
・友人 (いじめを除く) ・先生
・部活不応 入学・転編入学進級時の不応

<sup>1)</sup> 文部科学省『不登校に関する実態調査～平成18年度不登校生徒に関する追跡調査報告書～』2014年、p.73

<sup>2)</sup> 国立教育政策研究所 生徒指導リーフ『いじめと暴力』平成27年3月

実態調査」でも同様の結果が出ている。きっかけに対する認識がずれているのに、適切な対応が行われているのか、検証が必要なが見えてきた。

### イ 休み始めた欠席者への対応

電話連絡や家庭訪問のタイミング等、学校、教職員によってばらつきがみられた。これは、初期対応のとりえ方にばらつきがあることが考えられる。

### ウ 学校ごとの長欠の特徴

小学校で30日以上欠席（長欠）になっている子どもが多い学校、半数以上が中1または中2で長欠になる学校など、学校によって初めて長欠になる学年に特色があった（図1）。このことから不登校対策は、学校によって取組を考えていく必要があることがみえてきた。

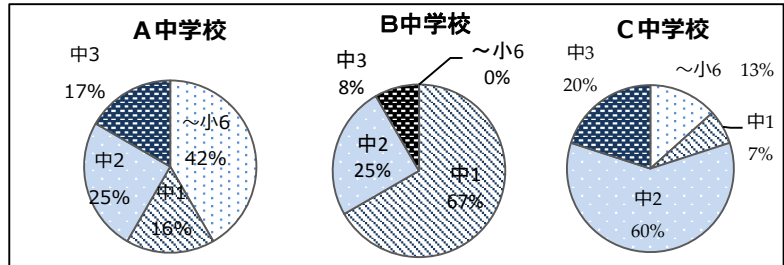


図1 初めて長欠になった学年（中学校別）

### ②教員

#### ア 支援の必要な子どもへの対応

年次研修受講者に向けて、25項目の質問をした振り返りチェックシートのうち、10年目の教員でも「できている」との回答が比較的少なかったのは、図2の「支援が必要な児童生徒への課題や宿題の出し方への工夫」や表3のように「支援が必要な子どもへの配慮」にかかわる項目であった。

表3 教員の「できている」の回答が少なかった項目

- ・前時に欠席した子どもが困らないように配慮する。
- ・毎時間「これがやれた」とすべての子どもが思える学習活動を取り入れる
- ・課題や宿題を忘れる、やっけてこないことについて検討し、改善できるように支援する
- ・全員に認められる場面を設定している

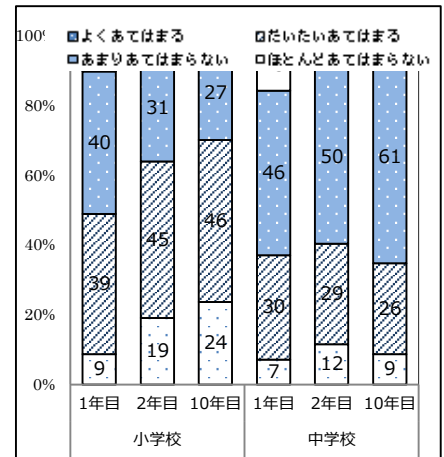


図2 支援が必要な子どもたちへの課題や宿題の出し方を工夫する

### イ 教育相談や保護者対応

「若手教員に向けた教育相談や保護者対応の研修が不足している。」と感じている生徒指導担当者が多く、年次研修対象者へのアンケートでも、保護者対応については、「十分な研修を受けてきていない」と感じている教員が多い項目の1つであった。（図3）

#### (2) 小中連携

#### ア 不登校のとりえ方

長欠に占める不登校の割合の小中の差は、本市が48ポイントで全国の31ポイント、神奈川県が33ポイントと比較して差が大きい。もう一度、欠席のとりえ方について確認することが必要であると考えられる。（図4）

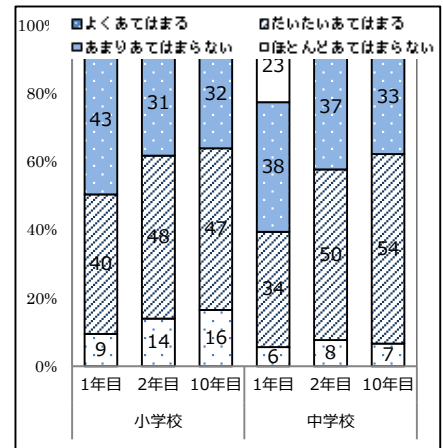


図3 保護者対応についてこれまで十分に学ぶ機会があった

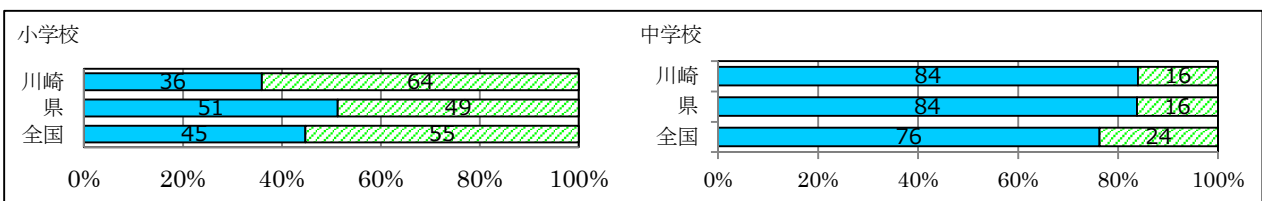


図4 長欠に占める不登校の割合

## イ 小中の引継ぎ

現在、引継ぎに使用している資料は、多い順から「カードまたは短冊」、「学級名簿」であった。入学後の情報交換については、定期的に会議を設けている学校は少なく、多くは臨機応変に情報交換するという、事後対応的な情報交換になっていることが分かった。

スクールカウンセラーへのアンケートでは、小中の引継ぎにかかわっているケースがまだ少なく、専門的見立て、保護者支援、教員への後方支援の立場から、「積極的に小中学校間の引継ぎにかかわり、未然防止、初期対応につなげたい。」という意見が多かった。

## 2 課題を解消するための取組

### (1) 先生のための振り返りチェックシート

振り返りチェックシートの自由記述からは、振り返ることで気づくこと、日ごろの取組について改めて振り返る大切さ、次に取り組みたいことを具体的に考えて取り組もうとする意欲等の記述が多くみられ、定期的にチェックすることの有効性が確認できた。それぞれの結果から、研修を担当する当センターとしても、現状が把握できることについても有効であることが分かった。

### (2) 教育相談に関する各種資料の作成

研修を受ける機会が少ないこと、休み始めの対応にばらつきがあること等の課題を解消するため、未然防止、初期対応、登校支援、教育相談の4つのカテゴリーに分けた資料を作成(表4)、教員がダウンロードし、学校や学級の実態に合わせて活用できるよう、自由に加工できるようにした。

表4 現状からみえてきた課題を解消するために作成した資料

<ul style="list-style-type: none"><li>◆未然防止<ul style="list-style-type: none"><li>・不登校を未然に防ぐチェックリスト</li><li>・不登校を未然に防ぐ授業づくり</li><li>・支援が必要な児童生徒と家庭環境のチェックリスト</li><li>・小学校児童理解のためのチェックリスト</li><li>・中学校生徒理解のためのチェックリスト</li><li>・不登校を未然に防ぐための小中連携支援シート</li><li>・不登校を未然に防ぐ年間スケジュール</li><li>・中学校生活アンケート</li><li>・転入生を受け入れるために</li><li>・楽しい中学校生活のために</li><li>・不登校を未然に防ぐための進級シート</li></ul></li><li>◆初期対応<ul style="list-style-type: none"><li>・早期対応チェックリスト</li></ul></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・欠席1日目の対応：電話対応のポイント</li><li>・欠席2日目の対応：家庭訪問のポイント</li><li>・欠席3日目の対応：チーム会議</li><li>◆登校支援<ul style="list-style-type: none"><li>・不登校個別支援記録</li><li>・不登校児童生徒への支援・援助チェックリスト</li><li>・校内でできる登校支援</li><li>・中学校3年生の不登校進路指導</li><li>・不登校生徒のための進路指導チェックリスト</li></ul></li><li>◆教育相談<ul style="list-style-type: none"><li>・教育相談チェックリスト</li><li>・よりよい関係を築く生徒との教育相談</li><li>・保護者面談の手引き</li></ul></li></ul>
--	--

### (3) 不登校対策研修会

これまでの年1回開催を平成27年度は2回に増やし、小中学校混合のグループで、教育相談や児童生徒指導の視点で、小中連携について実践的に学び合う不登校対策研修会を実施した。内容は次の通りである。

- ① 平成26年6月
  - ・小中引き継ぎ模擬会議・・・カード、学級名簿、支援シートを活用した引継ぎを体験
  - ・不登校を未然に防ぐための小6冬～中2春までのスケジュール作成
    - ・・・小中それぞれの学校生活の情報交換をしながらカレンダーに教育相談、共生\*
    - \*共育プログラムや効果測定、気を付けることなどを書き込む
- ② 平成27年7月
  - ・中1不登校事例の検討会・・・それぞれの学校ができることを出し合う
- ③ 平成28年1月
  - ・引継ぎシートづくり・・・中学校区ごとに引継ぎに必要なだと考える項目を紙にレイアウトし、効果的に引継ぎするためのシートを作成する。

それぞれの会の参加者の記述で最も多かったのは、「小中がお互いの子どもたちの学校生活のことを十分理解できていなかった」「小中で話し合うことができて良かった」というものだった。また、最終回は中学校区でグループワークを行ったが、中学校区での具体的な情報交換や取組の方向性について話し合うことについて、有効性を感じた教員がとても多かった。

また、「カード」「学級名簿」に加え、「支援シート」の3種類を使って模擬引き継ぎ会議を実施したところ、参加者より表5のような感想が出された。

表5 3種類の引継ぎ資料を使ってみての感想

<p><u>カード</u> (良い9人、良くない47人) ○クラス分けに便利 ×情報が不足している ×伝えたい情報が書き切れない ×情報の精選が難しい</p>	<p><u>学級名簿</u> (良い13人、良くない26人) ○自由に話せる ×伝え方が難しい ×どんな支援をしたのか伝わらない ×聞きたいことが抜けてしまう</p>	<p><u>支援シート</u> (良い142人、良くない19人) ×項目が多い ○項目があるので書きやすい ○情報に漏れがない ○支援が必要な子どもには有効</p>
---	---	--

多くの学校で使用している「名簿」や「カード」よりも「支援シート」の方が、支援の必要な生徒については有効であるという意見が大勢を占めた。参加者たちは、「支援シート」の有効な理由として、書き手側は書きやすさや情報の漏れ防止を、聞き手側はわかりやすさやその後の資料としての価値をあげていた。また、「シートの項目は小中で精選することが必要である。」や「シートをどう活用するかが大切である。」「効果的な支援を引継ぎ、9年間で支援していくという観点で引継ぎをしていく必要がある。」といった意見もあった。

### 3 研究のまとめ

本研究では、不登校等の問題行動の未然防止や初期対応を充実させるために、現状を把握し、その解決策を探ってきた。いくつかの課題が見えてきたが、研修の時間がなかなか取りにくい現状から、児童生徒理解や保護者対応、不登校に関して、校内研修等で気軽に活用できる資料の作成や支援の必要な生徒への取組を教員各自が手軽にチェックできるシートの作成等を行ってきた。不登校対策については、研修会を通して小中連携、特に引継ぎの在り方についての提案を行ってきた。事後対応を中心とした現在の状況から、未然防止・初期対応に重点を置く対応に切り替えていくためには、まず子どもや保護者を理解し、何を早めに取り組む必要があるのかや対応のポイント等、子どもや保護者が安心できるための基本的な情報を教員が得ておく必要がある。そのような意味において本研究の取組が、教員自身が「気づく」「分かる」ことを促すきっかけになったのではないかと考える。

今後の課題として、作成した資料等や研修内容をさらに広げ、実践につなげることがあげられる。そして、それぞれの効果の検証を行うとともに、不登校対策については国の施策も考慮しながら、さらに資料や研修を見直していかなければならない。中学校においてはスクールカウンセラーの専門的な知見を対応に生かすために、校内のチームの一員としてどのように活用できるか、特に小中連携については早急に検討していく必要がある。不登校等の問題行動に対して多くの学校が未然防止・初期対応に重点を置いた支援を行えるよう、今後も本研究を軸にしながら努めていきたい。

最後に、研究を進めるに当たり、ご支援、ご助言をくださいました講師の先生、また、校長先生を始め学校教職員の皆様に、心より感謝し厚くお礼申しあげます。

#### 【参考文献】

「不登校・長期欠席を減らそうとしている教育委員会に役立つ施策に関するQ&A」

国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター 2012年

#### 【指導助言者】

東海大学教授 (川崎市総合教育センター専門員)

芳川 玲子